

バンコマット

2025. 7. 10

ここ数年だろうか。現金を使う機会がめっきり減ってきた。丸々1週間、現金を手にしなかったこともある。元々、小銭を持ち歩くタイプの人間ではなかった。財布に小銭を入れておくということがなかった。それで、多少苦勞することもあった。ようやく、時代が私のスタイルに合わせてくれるようになった。ありがたい。

もう20年以上も前になる。前述のような生活を一度経験したことがあった。よく「バンコマット」という言葉を発していた。イタリアにいたときだった。スーパーなどでの支払いの際、店員さんに、「現金にしますか。それともバンコマットにしますか」と聞かれた。意味的にはそうなのだが、イタリア語のニュアンスとしては、「現金にするの。バンコマットなの」という感じである。いつも「バンコマット」と答えていた。そして、一枚のカードを差し出していた。

バンコマットは、あの頃、よくは理解していなかったが、クレジットカードでありキャッシュカードだった。イタリアの銀行に口座を開設し、このカードを受け取った。大変、便利なものだった。至る所で使わせていただいた。

週末や長期休業になると、よく高速道路を利用していた。インターチェンジで現金を支払ったことがなかった。これも便利だった。今の日本でいうところのETCである。あの頃は、システムをよくは理解していなかった。「とにかく便利だ、これは。でも日本にはないなあ」と思っていた。

日本に戻り、何年かするうちに、ETCカードが普及してきた。そこで、考えた。何故に、キャッシュレスに対して、日本はこうも遅いのだろうか。イタリアでは何年も前からできていることが、日本ではようやくなのである。不思議である。何かが違う。

イタリアでは、役所、郵便局、銀行などの窓口に行かなければならなくなると、もう大変である。半日がかりである。半日つぶれることを覚悟しなければならない。憂鬱である。それに比べると、日本の窓口業務はすばらしい。多少待たされたとしても不満に思っていない。

日本で、これほどまでにスマホ決済が普及していくとは思わなかった。現在のイタリアはどうなっているのだろうか。さらに進んでいるのだろうか。生活の様子を見学してみたい。

ずっと、財布には現金を入れてはいなかった。だが、あるとき、考えた。日帰り温泉によく行く。脱衣所のロッカーで百円玉が必要になるときがある。こういったとき、小銭をもっていないのは困る。そこで、考えた。財布に、百円玉1枚と五百円玉1枚を入れておくようにした。これで安心である。たいていの場合、何とかなる。レジで聞かれると、「バンコマット！」と歯切れよく答えていた頃が懐かしい。